特集 「お客様の変革を実現するシステム開発」と「技術のトレンドを先読みした先進サービス開発」を実践するNTTデータのR&D

インタビュー

生産技術革新とサービス提供能力向上のR&Dに注力し、グローバルへも展開

ソフトウェア開発、プロジェクトマネジメント、IT活用、IT基盤の4領域でR&D活動を積極展開するNTTデータの技術開発本部。「お客様の変革を実現するシステム開発」と「技術のトレンドを先読みした先進サービス開発」を実践する技術開発本部の取組みを木谷 強本部長にうかがった。

㈱NTTデータ
技術開発本部長
木谷 強氏

4つの領域でR&D活動を推進

――はじめに、技術開発本部様のR&Dの最近の状況からお聞かせください。

木谷　私ども技術開発本部は、NTTデータのR&D部門として「お客様の変革を実現するシステム開発」と「技術トレンドを先読みした先進的なサービス開発」の2つの視点から、NTTデータの事業活動に貢献するR&D活動を実施しています。現在、ソフトウェア開発、プロジェクトマネジメント、IT活用、IT基盤の4領域のR&Dに注力しています（図1参照）。

ソフトウェア開発領域では、開発の抜本的生産性向上を実現するための開発ツールや開発環境及びシステムライフサイクルの全フェーズを統合管理するソリューションの研究開発と普及展開に取り組んでいます。プロジェクトマネジメント領域では、プロジェクト管理・開発手順、開発データに基づく定量的な見積り手法の開発、開発プロセスの改革による工期短縮の実現など実証的な研究開発に取り組んでいます。IT活用領域では、ビジネスインテリジェンスとビジネスアナリティクス技術、情報の構造化や文書処理技術などの研究開発と普及展開に取り組んでいます。IT基盤領域では、クラウドやM2M、次世代ネットワーク基盤といった次世代ITアーキテクチャの研究開発に加え、セキュリティ技術の開発にも取り組んでいます。

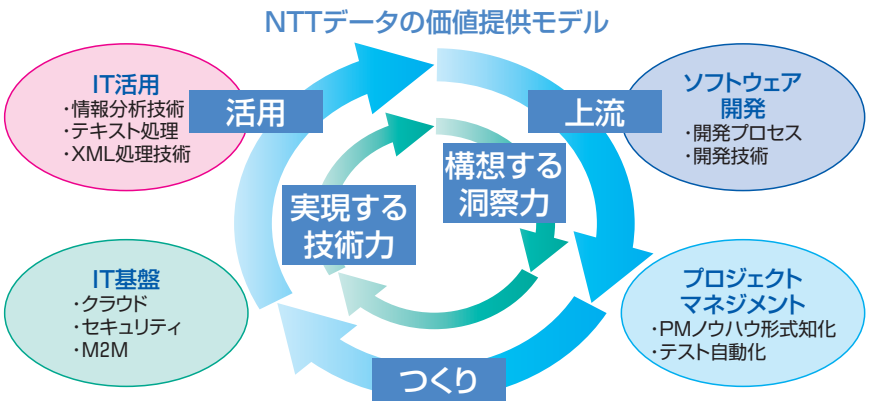

図1　NTTデータの価値提供モデル

特にソフトウェア開発とIT活用のR&Dに注力

――環境の変化を踏まえた技術開発本部様の重点施策についてお聞かせください。

木谷　グローバルIT企業の中でトップ5入りを実現するためには、競合他社との技術優位性を確保する必要があります。このため、特にソフトウェア開発領域とIT活用領域のR&Dを強化・加速し、ソフトウェア生産技術の革新による生産性向上と工期短縮、および新サービスの提供による事業拡大を目指します。IT基盤領域はNTTの研究所と連携して効率的なR&Dを実施していきます。図2に重点R&D施策を掲げています。

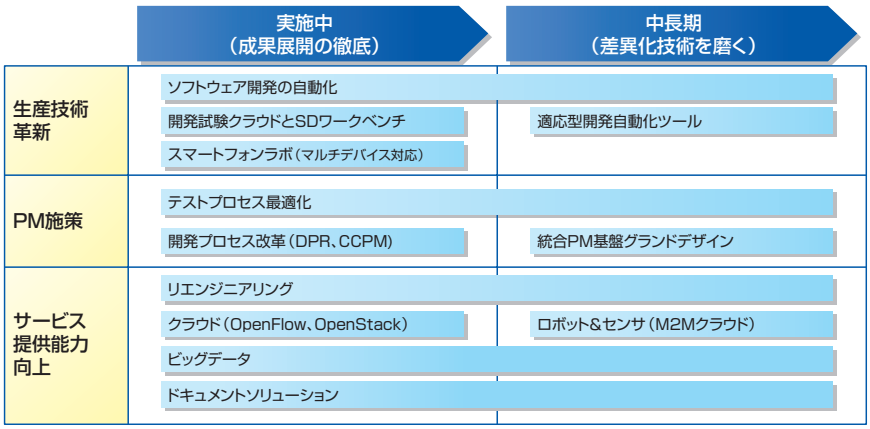

図２　重点R&D施策

生産技術革新に関しては、すでに社内プロジェクトで開発自動化ツールの活用が進んでいますが、これをさらに加速・拡大していきたいと考えています。また、稼動中の情報システムを分析するリバースエンジニアリング技術とソースコードを自動生成するツールとの連動にも取り組んでいます。

――IT活用の領域で特に注力されるテーマは・・・・。

木谷　ビッグデータに対するマイニングと最適化です。これはビジネスインテリジェンスにおける単なる情報の可視化とは異なり、次に何が起こるかをプロアクティブに予測し意思決定の最適化やシステムの制御に活用するもので、ビジネスアナリティクス（BA）と呼ばれています。これまでに、橋梁モニタリングシステム「BRIMOS」で、CEP（Complex Event Processing）を活用した大規模リアルタイムデータ分析に基づくプロアクティブな橋梁の異常検知処理が実現可能であることを実証しました。また、道路の渋滞を予測し信号などの交通を制御するシステムや、各種の情報源からのデータを利用した重要予測、さらには複雑な制約条件を充足する要員スケジューリングなどのビッグデータ＋BAに取り組んでいきます。さらに、ビッグデータを収集し活用するプラットフォームについても全社の「M2Mクラウド推進室」と連携して取り組んでいます。

グローバル化への対応を加速

――“One NTT DATA”として、グループをあげてグローバル戦略を加速されていますが、R&D領域でのグローバル化の状況をお聞かせください。

木谷　私どものR&D成果を国内グループ会社はもとより、海外グループ会社へも提供するという取組みを始めています。これまでは、TERASOLUNAのようなソフトウェア開発に関する既存技術の横展開活動が中心でした。最近では海外グループ個社や地域での多様なニーズや戦略が顕在化してきており、海外グループ会社と協力しながらツールと手順のカスタマイズや普及展開の活動を行っています。その代表的な例として、海外グループ会社と連携してテストの自動化を進める「Testing Global One Team」の活動（図３）や、小規模・短期開発案件が多い東南アジア地域の市場特性に合わせた開発手順「TERASOLUNA SS」の開発・適用があげられます。また2010年度から、海外グループ企業からR&D提案を受け付ける活動として「Global R&D Initiative」を開始しました。

――最後に、2012年の抱負をお聞かせください。

木谷　生産技術の革新とサービス提供能力の向上に注力していきます。また、中長期的な技術開発を実施するため、人材や実証実験の場を求めて海外でのR&D活動を加速したいと考えています。

――本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長　河西義人）

図３　Testing Global One Teamミーティング
（2011年８月 トロントにて）